

アジアの4カ国、5大学による国際シンポジウムが韓国・大邱市で開かれ、本学からも5人が参加、うち3人が研究発表を行いました。次回大会は本学で開催されます。参加した渡辺雄一学部長に報告してもらいました。

韓国・大邱市 国際シンポ参加報告

渡辺 雄一学部長



写真左は、全体集会で次回大会のホスト校となる本学や熊本について説明する竹屋学長。同下は、研究発表する吉野講師



第9回 Allied Health Science Symposium (AHSS)が10日（金）、韓国・大邱保健大学をホスト校として開催され、本学からは竹屋元裕学長、青木学教授（医学検査学科）、吉野拓未講師（看護学科）、宮田浩紀講師（リハビリテーション学科生活機能療法学専攻）、渡辺の5人が参加した。

AHSSは保健医療系の学部を持つ4カ国（日本、韓国、タイ、フィリピン）の5大学（本学、大邱保健大学、コンケン大学、セントロ・エスコラー大学、ファー・イースタン大学）が毎年持ち回りで主催する国際シンポジウムである。今回は大邱市内のホテルを会場に、分科会ではAHSS参加5大学から計13の研究発表がなされた。本学の発表者と演題は以下の通り。

<臨床検査領域>

青木 学教授：

GRL-142, and HIV-1 Protease Inhibitor, Binds to and Impairs HIV-1-Integrase-Nuclear Localization Signal and Exerts Potent Activity against INSTI-Resistant HIV-1 variants

<看護領域>

吉野 拓未講師：

Survey on Ethical Dilemmas Faced by Nursing Teachers in Clinical Practices.

<リハビリテーション領域>

宮田浩紀講師：

Verifying the Effectiveness of a Combined Program Aimed at Preventive Social Frailty

分科会の後の全体集会では、来年度（第10回AHSS）のホスト校である本学を代表して竹屋元裕学長が挨拶に立ち、本学（学部と大学院）や熊本県の紹介をスライドと動画を使っておこなった。

来年度は7月開催が決定しており、現在国際交流委員会で具体的な日程やプログラムについて検討中である。今回の大邱でのシンポジウム参加はその準備のための視察という目的もあり、開催校の大邱保健大学の実施方法を実際に体験し、いろいろと質問する機会があって大変参考になった。本学がホスト校を務めるのは、2012年、2017年、2021年（オンライン）に続き、来年度が4回目となる。

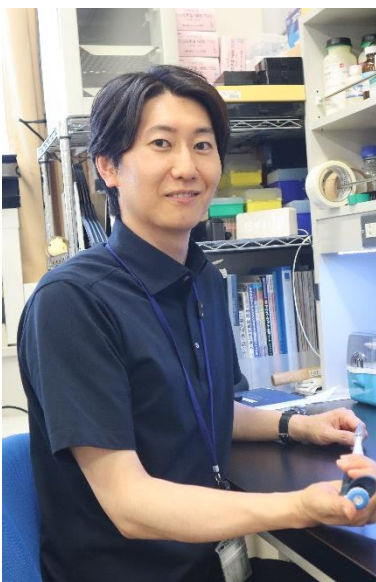


国際シンポに参加した、右から吉野講師、青木教授、竹屋学長、渡辺学部長、宮田講師

青木教授ら3人が発表／来年度は本学開催

田中准教授に最優秀論文賞

日本基礎理学療法学会 脳損傷マウスで運動の効果検証



「経験を学生にも還元していきたい」と話す田中准教授

リハビリテーション学科理学療法専攻の田中貴士准教授が、日本基礎理学療法学会の2023年度最優秀論文賞に選ばれました。自発的・継続的な運動と脳損傷後の神経修復力との関連を明らかにした論文であり、現在も研究を進めるとともに、派生したテーマにも意欲的に取り組んでいます。

同賞は、毎年発行される学会誌『基礎理学療法学』に掲載された論文の中から、最も優秀と認められた研究者に贈られます。田中准教授の論文タイトルは「脳損傷における自発的・継続的な運動は加齢で低下する概日リズムと神経修復力を高める」。高齢期の脳損傷モデルマウスに自発的かつ継続的な走行運動をさせ、運動を担う神経路の神経発芽や運動機能回復への効果を検証しました。田中准教授は同研究を2022年12

月の同学会学術大会でも演題発表し、優秀賞に選ばれています。

近年は、脳を損傷したマウスの「子育てがうまくない」（田中准教授）ことに気づき、虐待などの不適切な養育と脳内細胞の品質管理を担う小胞体ストレスとの関連に着目した研究にも着手。本年度の科学研究費助成事業（科研費）基盤研究(B)にも採択されました。

今回の受賞について田中准教授は「地道さを要する研究ですが、最近少しずつ賞を頂けるようになり、ありがたい限りです。研究資金も切れ目なく獲得できるようになり、責任の重さも感じています。今後は、運動の効果さをさらに検証することで、健康補助食品や治療薬の開発に結び付けることが目標です」と、話していました。

(NL編集部)

新設リーグで 頂点目指せ！

健康・スポーツ
教育研究センター

レポート

本学と包括連携協定を締結している鶴屋百貨店バスケットボール部の10選手がシーズンを控えた4月24日（水）、本学アリーナで膝関節外反角度評価や全身弛緩性テスト、BIODEXでの筋力評価など7項目のLaboratory Testを受けました。

同部は今シーズン、日本最高峰のアマチュアリーグとして新設された「日本社会人バスケットボールリーグ（女子）」に臨みます。

この日は、健康・スポーツ教育研究センター教員の指導の下、理学療法専攻スポーツリハビリテーションコースの学生17人と大学院リハビリテーション領域の4人、朝日野総合病院の理学療法士3人が計測にあたりました。新リーグの開幕を1カ月半後に控え、選手たちは真剣な表情で取り組んでいました。

センターの枝尾久美講師は2002年度から21年間、同部のトレーナーとして選手たちのプレーを陰で支えてきました。今シーズンから後任者にチームを託すことになりましたが、「これからは後進の育成に尽力し、新たな形でより長くサポートしていきたい」と鶴屋愛にあふれる想いを語っていました。

新たなステージで日本一を目指す鶴屋バスケットボール部。社会人トップの6チームで戦う新リーグは6月15日（土）に開幕します。

(健康・スポーツ教育研究センター)

鶴屋バスケット部
開幕控え能力測定



膝関節外反角度評価（写真上）や等尺性股関節外転筋力測定（同下）に臨む選手たち





広くて快適 ネット環境も充実

臨床検査領域 院生研究室引っ越し

1号館の大学院生用研究室（臨床検査領域）が10日（金）、これまでの1424室から1406ゼミ室に移動しました。本年度、臨床検査領域には1年生2人、2年生5人の院生が在籍しており、これまで使用していた研究室が手狭となったため、環境を整えようと研究室引っ越しとなりました。新研究室は13日（月）から運用を開始。同領域2年の中村将己さんは、「広くて快適になり、ネット環境なども充実して、より研究に打ち込めます」と嬉しそうに話していました。

（入試・広報課）



スポーツ観戦は現地に限る！



リハビリテーション学科
理学療法専攻
本田 啓太講師

私の趣味のお話です。小学4年生から社会人2年目までサッカーを続けてきました。今では正月に同級生と初蹴りをするくらいで、観る専門になってしまいましたが、毎月DAZN（ダゾーン）に約2000円を払い、Jリーグや海外サッカーを観戦しています。

サッカーに限らずですが、ビール片手に現地で見るスポーツは最高です。これまでに、現地観戦したのは、①えがお健康スタジアム（熊本）、②駅前不動産スタジアム（鳥栖）、

③ベスト電器スタジアム（福岡）、④レゾナックドーム大分、⑤日産スタジアム（横浜）、⑥ニッパツ三ツ沢球技場（横浜）、⑦埼玉スタジアム2002、⑧ユアテックスタジアム仙台、⑨ひとめぼれスタジアム宮城の9カ所でした。

今年は、家族みんなで、⑩エディオンピースウイング広島まで行って、サッカー観戦を計画しています。スポーツの現地観戦が好きな方がいらっしゃれば、是非お勧めのスタジアムを教えてください。

アリーナ裏にて

学内を散策していたら、アリーナ裏に花が植えてあるのに気がつきました。名前は知らないけれど、連日の快晴のため少し元気がない様子。「負けるな！」とつぶやきながら歩を進めると、小径の両側に一群の椅子が。椅子に座りきれいに咲いた花を眺めながら、談笑する学生、勉強の疲れを癒す学生…。つい、そんな姿を連想しました。

（隈部拓朗）



インフォメーション

週間行事予定（5月28日～6月3日）	
5/28（火）	阿蘇プロジェクト事前練習会
6/1（土）～6/15（土）	コンケン大学（タイ）交換留学生の受け入れ